

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 12 月 15 日	
所属部局・職	霊長類研究所・博士課程学生
氏名	武 真祈子

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
ブラジル、アマゾナス州、マナウス市
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
キンガオサキの生態研究のためのプロポーザル執筆
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 10 月 24 日 ~ 平成 29 年 12 月 15 日 (53 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
国立アマゾン研究所 (INPA)、Wilson Spironello 博士
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
【目的】 ブラジルでの調査許可を取得するためには、研究計画書(プロポーザル)を受け入れ機関(私の場合 INPA)に提出し、認可を受ける必要がある。求められるのは、研究の背景からデータ分析の方法、予想される結果まで網羅された詳細なものである。このプロポーザルを完成させるためにはブラジル側カウンターパートとの綿密な意見交換が必要不可欠だが、経験上、メールのやりとりだけでは大幅に時間がかかることが予想されたため、今回は現地で直接コメントをいただきながらプロポーザルを書き上げることを目的として渡航した。合わせて、修士論文を投稿論文にまとめること、ポルトガル語のレベルアップも目的とした。
【目的の達成状況】 主目的であるプロポーザルの執筆は、帰国間際までかかったが達成された。滞在最終日に無事提出することができた。今後、レビュワーによる査読が行われ、認可されれば INPA から Invitation letter が発行され、学生ビザの申請を行うことができる。時間がかかった理由としては 2 人いるブラジル側カウンターパートのうち 1 人との面会がなかなかできなかったことが大きい(先方の海外出張のため)。スケジュール調整の段階で確認をとっていたつもりだったが、さらなる念押し確認が必要だったのかもしれない。結局面会できたのは帰国日の 1 週間前だったが、それまでにもう 1 人の先生とのディスカッションなどできることはやっていたのでなんとか最後に目的を達成することができた。もちろんもっと早く会えていればより深く研究計画を練ることができたはずなので、スケジュールがかみあわなかったことは大いに反省し、今後のコミュニケーションに生かしたい。 研究計画に含まれている植物の栄養分析や、対象種の咀嚼能力をはかるための形態計測に関しては、Adrian Barnett 博士が知り合いの研究者を数人紹介していただき、メールのやりとりを開始した。このような人脈の広がりも、今回の渡航の大きな成果であった。次の渡航までに調整を進めたい。 修士研究の論文化については、完成にはいたらなかったが、カウンターパートのブラジル帰国を待っている間にデータ分析方法の見直し作業や、構成についてのディスカッションを進めることができた。早く投稿できるように今後も執筆作業を進めていく。 語学の習得については、ラボメイトの学生となるべくポルトガル語で会話するように心がけた。レベルアップしたという具体的な証拠はないが、実感として、タクシーの運転手さんとの世間話の内容が広がった気がする(前は簡単な自己紹介だけだったが、趣味や研究内容の話ができるようになった)。日本にいる間も継続して学習していく。
<平成 26 年 5 月 28 日制定版> 提出先： report@wildlife-science.org

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

【その他の成果】

今回の大きな成果は、日系ブラジル人のお宅にホームステイをさせてもらえることになったことである。長期滞在の拠点として、これまで(アパートでの一人暮らし)とは比較にならないほど安全で快適な環境を利用できるようになった。ブラジルの治安情報や文化、わからない単語などについても教えてもらえる。来年度からは1年かそれ以上の長期滞在を計画しているため、安心して暮らせる拠点を得たことは楽しく研究を進める上で非常に重要な成果であった。ホストファミリーおよび紹介して下さった JICA 現地調整員の市山さん、エステファニーさんに感謝したい。

【今後の課題】

今回、ポルトガル語はもちろんだが、自分の英語力の不足を強く感じた。カウンターパートとのディスカッションにおいて、相手の言っていることを聞き取ることが精一杯で、それを受けて自分の考えを伝えるということが十分にできず、もどかしい思いをした。次回の渡航はビザ取得にかかる時間を考慮して2018年4月中旬を予定している。渡航前の時間を有効に活用し、ポルトガル語および英語の強化に努める。また、論文執筆、機材・試薬の準備を進め、万全な状態で長期調査に臨めるようにする。



ホームステイ先ではブラジル料理のレクチャーを受けることもできた。
写真はトゥクナレという魚を使ったスープ、「カルデラーダ」。

6. その他 (特記事項など)

ブラジル VISA 申請の事情を理解していただき渡航許可をくださったコーディネータの松沢哲郎先生、およびサポートいただいた PWS 支援室の皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。